



公明党 永尾 邦忠 議員

▼二〇一四年度補正予算の活用について

Q この補正予算で利用可能な地域消費喚起・生活支援型の活用について、①プレミアムつき商品券の発行、②多子世帯への上乗せ、③観光客も使える商品券を発行するののか。

A ①地域経済の活性化を図るため、現金一万円で一万二千円分利用できる商品券を二万セット販売する予定である。②高校生以下の子供が三人以上いる世帯への上乗せとして、一万二千円分利用できる商品券を八千円で購入できる商品券を発行する予定である。③観光客に対し、土産品や食事等のプレミアムつき商品券の発行を考えている。

▼半島振興法について

Q 現在の半島振興法の状況はどうか。

A 十年間延長され、産業振興や定住促進などのソフト事業に活用できる支援策の創設や地方債制度の充実が盛り込まれる見込みである。特に地方債制度は、防災機能の強化に資する道路整備事業について、充当率が引き上げら

れる見込みであり期待している。

▼教育について

Q がんは学校における健康教育の中でも、健康に関する基本的な教養として必要不可欠と定義されているが、本市はどのように取り組んでいるのか。

A 常習的な喫煙により、肺がんや心臓病など、さまざまな病気を起こしやすくなることを学習している。

Q 学校給食の今後の方針はどのように考えているのか。

A 学校給食は、栄養バランスや食育の視点に立った献立表を作成するとともに地産池消に努めている。調理方法はセンター方式が二カ所、親子方式が三カ所だが、現在、児童・生徒数の減少による各調理場の規模の見直しを行っており、今後は炊飯設備を備えた給食センターの設立が課題となっている。

▼ゴミ出しに支障のある方々への対応について

Q 高齢者の単身世帯がふえているため、ステーション方式は範囲が広すぎる地区もあると思うがどうか。

A クリーンボックスの設置によって、もう少し近くでゴミ出しができるような対応を考えている。

【その他の質問項目】

◇地域創生先行型交付金について



青 籍 松坂 昌應 議員

▼庁舎建設を機に総市民でまちづくり論議を

Q プロポーザル審査の感想と、歩行者を大事にするという観点から再検討の余地はあるのか。

A 一次審査を通過した三者によるプロポーザル審査を行ったが、いずれも大手広場を市民が集い、憩えるまちづくりの観点を盛り込んであり大変安心した。今後の進め方としては、議員や市民の意見をいただきながら、基本的な設計を行うことになる。

▼市職員が「市民のために」頑張れる環境整備を

Q 一時間だけでなく、細切れの年休は取れるのか。

A 一時間単位での年休取得もできる。

Q 事前に残業が多い時期は把握できると思う。行き当たりばったりでなく計画的に配分できないか。

A イベントや大きい事業がある場合には予測がつかため、所属長が判断して、計画的な配分を今後もお願いしていきたい。

【その他の質問項目】

◇図書館の開館時間

◇積極的「情報公開」

Q 十七時十分に蛍の光を流して区切りとし、残業前に四十五分の休憩を入れてはどうか。

A 一、二時間の残業の前に四十五分休憩をすると、その分帰宅が遅くなるため厳しいと思う。残業をする場合は、適宜休憩を取るような配慮をした

▼古紙の取り扱い

Q 古紙は燃やせるごみなのか、資源ごみなのか。

A 古紙類は資源物として扱っている。

Q ごみの出し方一覧には、事業所のごみは集めないとされている。島原市内で仕事をしている事業者は市民ではないのか。事業者はごみをどこに出せばいいのか。

A 事業所が出すごみの処理方法のお知らせ等を作成し、事業所の方にもごみの減量化等についてお願いしたい。

▼開門して干潟を再生へ

Q 調整池を仕切っている排水門は、干潮時に一方通行でほぼ毎日開門し、泥水を排水している。どのくらいの量が排水されているのか。

A 二十五年度の実績で約三億トンが排水されている。